

令和元年度 科学教育若手教員研修会 愛知大会開催報告

1 研修テーマ

「科学が好きな子どもを育てる」

～理科の見方・考え方をはたらかせ、科学的に探究する授業づくり～

2 研修テーマについて

理科の見方・考え方をはたらかせ、科学的に探究する子どもを育てるためにはどのような授業づくりをすればよいのかを考え、実践的な指導力の向上につなげていく。

■研修テーマの具体化と視点

令和元年度愛知大会では、「子どもたちが理科の見方・考え方をはたらかせ、科学的に探究する授業づくりを積み重ねることによって、科学が好きな子どもを育てることができるであろう」という仮説に迫るために、子どもたちが自然に親しみ、身近に感じるような教材教具の開発や、自ら問題を見出し、探究できるような授業展開の工夫・改善を図る。

3 開催日時 令和元年6月15日（土）、16日（日）【1泊2日】

4 開催場所 愛知県青年の家

5 実施内容

(1) 開会行事

- | | | |
|------------|-----------|---------|
| ① 支部長挨拶 | 愛知支部長 | 清水 範彦 |
| ② SSTA本部挨拶 | SSTA常任理事 | 宮澤 志郎 様 |
| ③ 財団挨拶 | 科学教育部統括部長 | 福留 仁 様 |
| ④ 来賓紹介 | 愛知副支部長 | 柴田 芳之 |

(2) 基調提案 本研修のねらいと研修の進め方 研修リーダー：近藤 浩之



研修テーマに迫るために研修リーダーから「理科の見方・考え方」について具体的な説明がなされた。具体的な4つの視点を挙げて提案をした。

- ①「理科の見方・考え方」と手だての工夫・改善
- ②自然に親しみ問題を見出し、追究できる教材教具の工夫・改善
- ③科学的に探究しようとする授業展開
- ④見通しをもって学習に取り組み、学習を振り返る学習評価の在り方

(3) 部会別研修



1日目は基調提案の後、小3から中学の5つの部会に分かれ、各部会に指導者・指導補助者が指導・助言にあたった。具体的な視点を踏まえ、本時にあたる授業展開のあり方を協議・検討した。

- 【小学校3年部会】「ものの重さと体積」
- 【小学校4年部会】「物質の体積と温度」
- 【小学校5年部会】「電磁石のはたらき」
- 【小学校6年部会】「水溶液の性質」
- 【中学校部会】 「生命を維持するはたらき」

(4) 全体研修 「身近な物を生かした教材作り」



講師：蒲郡市生命の海科学館 浅井 猛 様
外部講師として浅井 猛先生をお招きし、「ねずみたんけい」と「偏光万華鏡」の2つ教材作りを行った。研修員は、教材の作成を通して教材の仕組み、教具の精密さについて驚きと関心を示していた。また、研修員同士で対話を重ね、協議しながら教材作成にあたることで、研修員の活動も活性化し、深い学びを得ることができた。

(5) 部会別研修



子どもたちに育みたい資質・能力は何か、実践を進める上での課題は何かという協議が活発になされた。検討を重ねるうちに授業改善の視点が焦点化されていき、授業展開における内容が具体化された。指導者の助言も的確であり、理科の見方考え方を踏まえた授業展開を検討した。授業を構想し多面的な視点から授業を練る姿が見受けられた。提案発表に、模擬授業形式を取り入れることで子どもの具体的な姿や発言をイメージするようになり、教師支援のあり方が明確になってきた。

(6) 各部会提案発表



教材開発と発表準備を踏まえ、各部会による提案発表を実施した。若手教員による模擬授業の演技が実に臨場感あふれる内容であった。各部会とも工夫を凝らし、子どもたちに伝わる、分かりやすい発表を具現化していた。また、発問の仕方、事象提示、板書の方法など、授業の基礎基本をおさえる上でも有益な発表であった。発表後には、企画研修委員により指導講評をいただいた。

(7) 閉会行事

- | | | |
|------------|------------|---------|
| ① 支部長挨拶 | 支部長 | 清水 範彦 |
| ② SSTA本部挨拶 | SSTA常任理事 | 宮澤 志郎 様 |
| ③ 財団挨拶 | 科学教育部統括部長 | 福留 仁 様 |
| ④ 次期開催支部挨拶 | 新潟支部研修リーダー | 土佐 和久 様 |

6 愛知支部大会を終えて

若手教員研修会を開催するにあたり、中日本ブロック各地の先生方が参加してくださいました。1泊2日という短い期間であったが研修員の先生の意欲がみなぎる、充実した研修を繰り広げることができた。また、ソニー教育財団には、格別のご支援ご配慮を賜り、深く感謝申し上げます。

